

平成30年度いずみこども園自己評価

・保育目標

安心してすごせる第2の家庭となるような保育
 ひとりひとりを大切にし、丁寧なかかわりをする
 落ち着いた静かな環境の中で子供達の主体的な遊びを保障する
 本年度の重点的目標
 丁寧に子どもとかわる（ひとり一人をよく見ていく）
 遊びを進めて子どもが主体的に遊ぶために保育者の環境づくり
 職員間の連携を図り保育に生かす

目標・内容	反省点
保育目標認識度	認識は、おおむねされている。ひとつのことも同じ考えになるよう記録をとり職員間で共有していくようにした。
保育者間の連携	決定事項など記録をとり職員間で共有することで、連携を深めるようにし、レコグなどの利用により共有できているが保育の場面での細かい点の共通理解できるよう話し合っていく必要がある。
保育内容	乳児・・・一人ひとりの生活リズムを大切に、保育者の声掛けを丁寧に進めて行くようにしたい。 幼児・・・子どもの成長にあわせ内容を進めて行くように一人ひとりの配慮事項をしっかり捉えるようにしていきたい。小学校に向けて子どもの成長を確認していきたい。
研修	昨年に引き続き園外研修に多くの職員が参加した。一人ひとり研修で学んだことを日々の保育にいかしているがさらに知識研修を深めて生きたい。 消火訓練を通して火災の初期消火を身に着けた。
保護者との連携	保護者との関係を強化して行き、子どもへの共通理解を進めて行く。 気になる子の保護者との話がスムーズになるように気になる子について勉強していくことが大切。
安全への取り組み	ヒヤリハットを通して園内事故をふせぐようにした、また、水遊び中の監視員の監視内容を研修し強化した。
総評	乳児・・・発達を捉えながらさらに遊びを進めていくことは、保育者が発達の流れを理解しなければならないので、発達の勉強会を進めたい。 幼児・・・一人ひとりの子どもの成長の確認することの中で発達や遊びの提供をしていくことが必要である。